

# 神河町史「自然・地理編」地質調査(その1)

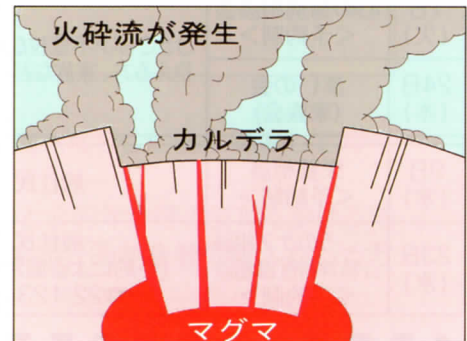
## 神河町の大地はどのようにしてできた?

神河町史調査員(地質) 橋元 正彦

みなさんは、神河町の大地がどのようにしてできたか想像したことがありますか。神河町の大地ができたのは、アンモナイトが海を泳ぎ、恐竜が栄えていた白亜紀という時代です。

### 1. 白亜紀の巨大カルデラ噴火

そのころ日本海はなく、日本はまだユーラシア大陸の東にくっついていました。今の神河町にあたる場所では、大規模な火山噴火がくり返し起こりました。地面の割れ目からマグマが大量に地上に噴き出し、大きな火砕流が、何度も発生したのです。マグマの抜けた地下は空洞となり、そこへ大地が落ちてカルデラという地形をつくりました。カルデラには水がたまり、今の十和田湖や摩周湖のようなカルデラ湖ができました。カルデラは、小田原川下流を中心とするあたり(大河内層)、越知川下流を中心とするあたり(笠形山層)、峰山高原から犬見川を中心とするあたり(峰山層)などの5ヶ所で、次々とつくられて重なり合いました。



▲ 巨大カルデラ噴火のようす

### 2. 神河町の地層

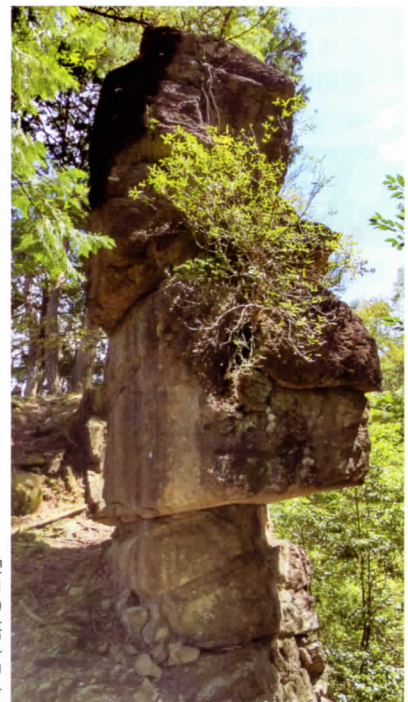
どうしてそのようなことがわかるのでしょうか。それは、大規模な火砕流の跡が地層として残されているからです。火砕流は、火山口から激しく噴き出した火山灰や軽石などが高温の火山ガスといっしょに高速で流れ下る現象です。火砕流がスピードを失って地表にたまと、火山灰や軽石は高温のために融けてくっつきあい溶結凝灰岩という岩石になります。この溶結凝灰岩の地層が、神河町のいたるところで見られるのです。

笠形山は、この溶結凝灰岩でできています。溶結凝灰岩は、冷えるときに平行な割れ目をつくることが多く、登山道には、板のように薄く割れた石がたくさん転がっています。山頂付近の「天狗岩」や「天邪鬼の挽き岩」などの名所は、この割れ目によってできたものです。この岩は四角く割れることもあって、作畑の「重箱石」や中村の「石の塔」などができています。火山の噴火は、火砕流を発生させただけでなく、溶岩を流したこともありました。千ヶ峰は、このときの溶岩がかたまってできた安山岩からできています。

カルデラの地形は、長い年月の間に侵食されて失われましたが、神河町をつくった火山噴火の痕跡は大地にしっかりと刻まれているのです。



峰山層の火砕流堆積物でできた石彫アート  
(手前の2体、道の駅「銀の馬車道・神河」)▶



▶ 「石の塔」中村

## 『神河町史』の編さんを行っています！ VoL 5

今月の広報では、令和6年度刊行予定の神河町史 第1巻『自然・地理編』の地質調査でわかったことについて紹介しています。

みなさんは、「神河町の大地はどのようにつくられてきたのだろうか?」「地質や採掘されている鉱物について知りたい!」と思われたことはありませんか。テレビの番組で見たような大地の営みが神河町にもあります。

神河町史編集委員の橋元さんに神河町を踏査され明らかになったことを詳しく書いていただいています。「歴史文化遺産特別ニュース」19ページをご覧ください。



▲地層を観察される様子



▲八幡山の岩石薄片の顕微鏡写真(単斜輝石安山岩)

神河町の歴史文化遺産

